

防犯教本6

経済防犯1

基礎知識編



日本防犯診断士協会

目 次

第一章 経済防犯の基礎知識

経済防犯の概要	2
経済防犯と2つの理論	4
詐欺と悪質商法の違い	6
騙しの仕組み／例、結婚詐欺	8
騙しの輪1と2／願望・思いこみ	10
騙しの輪3と4／混乱・錯誤	12
騙しの輪1／願望	14
手口変化・参考事例／振込詐欺	15
振り込め詐欺／被害回避の要点ほか	16

第二章 詐欺

詐欺／詐欺の手口27種	20
5つの詐欺／投資、財テク、出資、新事業、未公開株詐欺の概要	22
5つの詐欺の特徴	23
5つの詐欺の特徴1～5	24
5つの詐欺の結末	29
取り込み詐欺／靈感商法偽	30
偽宗教商法／保証人詐欺	32
手形詐欺2例／保証金詐欺、出資金詐欺	34
内職紹介詐欺／連鎖講詐欺	36
融資詐欺／M資金詐	38
海外先物取引詐欺	40
偽造有価証券詐欺／株取引詐欺	41
融資詐欺（ヤミ金詐欺）	43
受験・裏口入学詐欺	44
各種の装い詐欺	45
不動産使用詐欺	46
詐欺師とは	48

第三章 悪質商法（悪徳業者）

悪質商法の手口（21種）	52
被害回避の4段階	54
接近・接触／5つの手口	55
／手口1飛び込み／手口2キャッチ	56
／手口3電話／手口4DM・チラシ	58
／手口5ネット&メール	60
ネットに関する詐欺&悪質商法	61
ネットのトラブルなど困った時のホームページ一覧表	61
催眠商法	63
モニター商法、デート商法／悪質商法3つの手口	64
押し売り／障害者への騙しの販売	66
クーリングオフ／消費者契約法	67
闇金融	68
悪質商法対策／新規制法成立	70
消費者庁設立固まる	71
巻末	72

第一章 経済防犯の基礎知識

本講座では、詐欺や悪徳商法など、巧妙な手口で私達の金品を狙う犯罪に対する防犯を「経済防犯」としている。

「かご抜け詐欺」という文言がある。（かご「籠・籠」＝江戸時代？）詐欺が古くから存在していたことを示す。現代でも、多くの詐欺被害が発生している。詐欺という犯罪が、防ぐことが難しい厄介な犯罪だという証明である。

詐欺犯罪がなくなる要因の一つに、詐欺は、私達の生命や身体に、直接危険が及ばないことから、危機感が脆弱なことがある。

これが間違いなのだ。詐欺師に騙されて苦境に陥った被害者が自殺したり、一家心中するケースだってある。商店や企業を倒産させ、従業員や家族の生活を破綻させたり、路頭に迷わすという深刻な被害も発生しているのだ。

詐欺は、私達の大事な金品、財産を狙うという点で、強盗や殺人等の凶悪な犯罪と同じなのである。

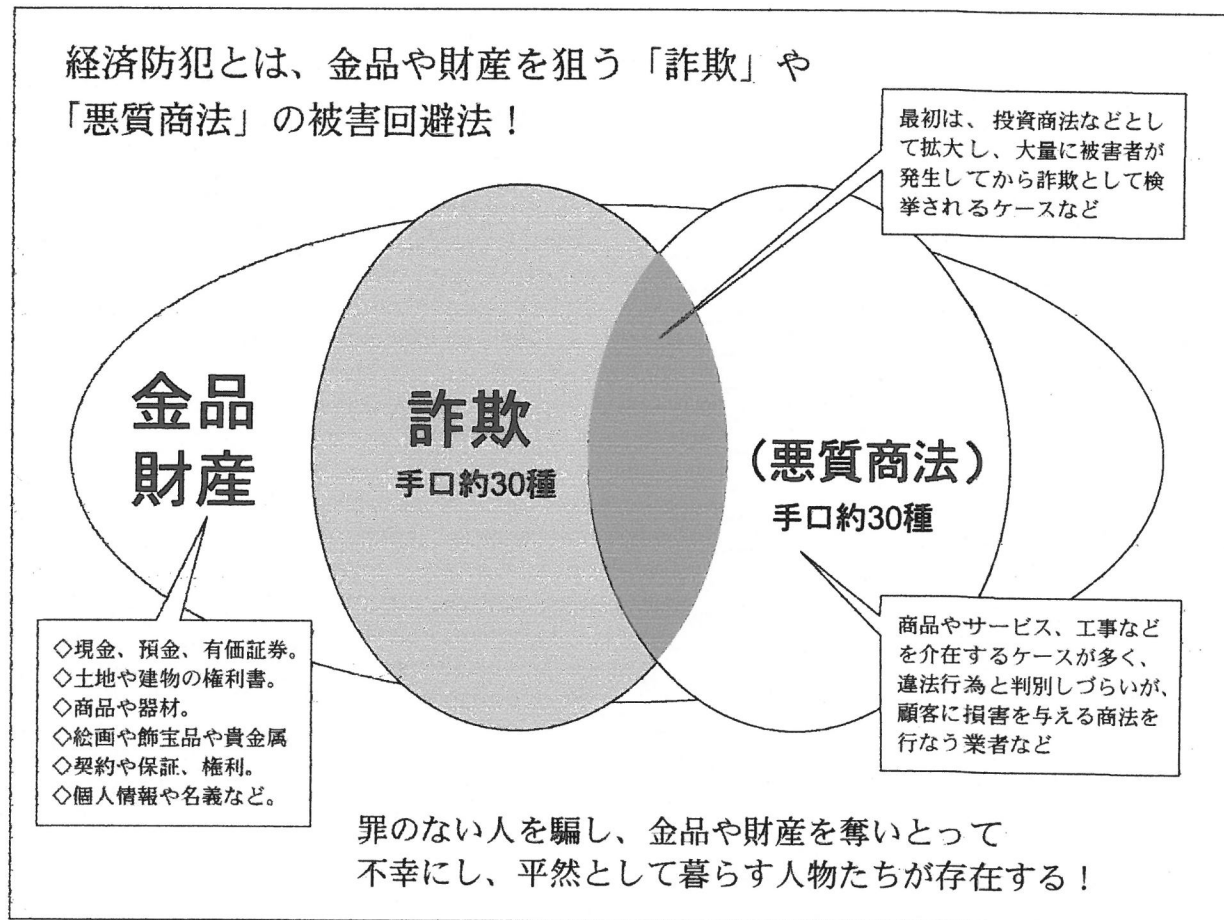
詐欺には、被害者の全財産を奪うほど凄まじい手口がある。悪徳商法には、誰でも被害者になりうるという特徴がある。これら経済犯の多くは、用意周到に計画し、工夫したストーリーで騙すのだ。

ターゲット（対象者）に気づかれないように接近し、巧妙に罠に騙し、金品や財物を詐取したり、契約を結んで多額のローンを支払わせるのである。

最近では、社会的弱者である高齢者を狙って、金品や財産を騙しとる手口が多発している。

本編では、詐欺や悪徳商法などの経済犯罪の防犯に役立つ基礎知識について解説する。

経済防犯の概要



解説

詐欺とは「他人を騙して錯誤に陥れ、金銭や財物等を騙し取ったり、過失的決意をさせたりする行為」とある。（「広辞苑」参照）

詐欺には3つの段階がある。

- 1、被害者を騙して金品や財物を詐取することを目的として接近する。（「欺罔」）
- 2、被害者が強い関心を持つ事柄に対して、嘘や架空の言動、書類、協力者を用いて信用させて騙しとる。（「錯誤」）
- 3、こうして騙し取ったり、多額の借金を発生させて詐取した金品や財産を隠蔽、他の目的で使う。（「財産処分」）

悪質商法・業者（あるいは悪徳商法・業者ともいう）は、各種の商品やサービス、金利や利息を、有利に得られるかのように騙して購入させたり、勧誘して被害を与えるものだ。

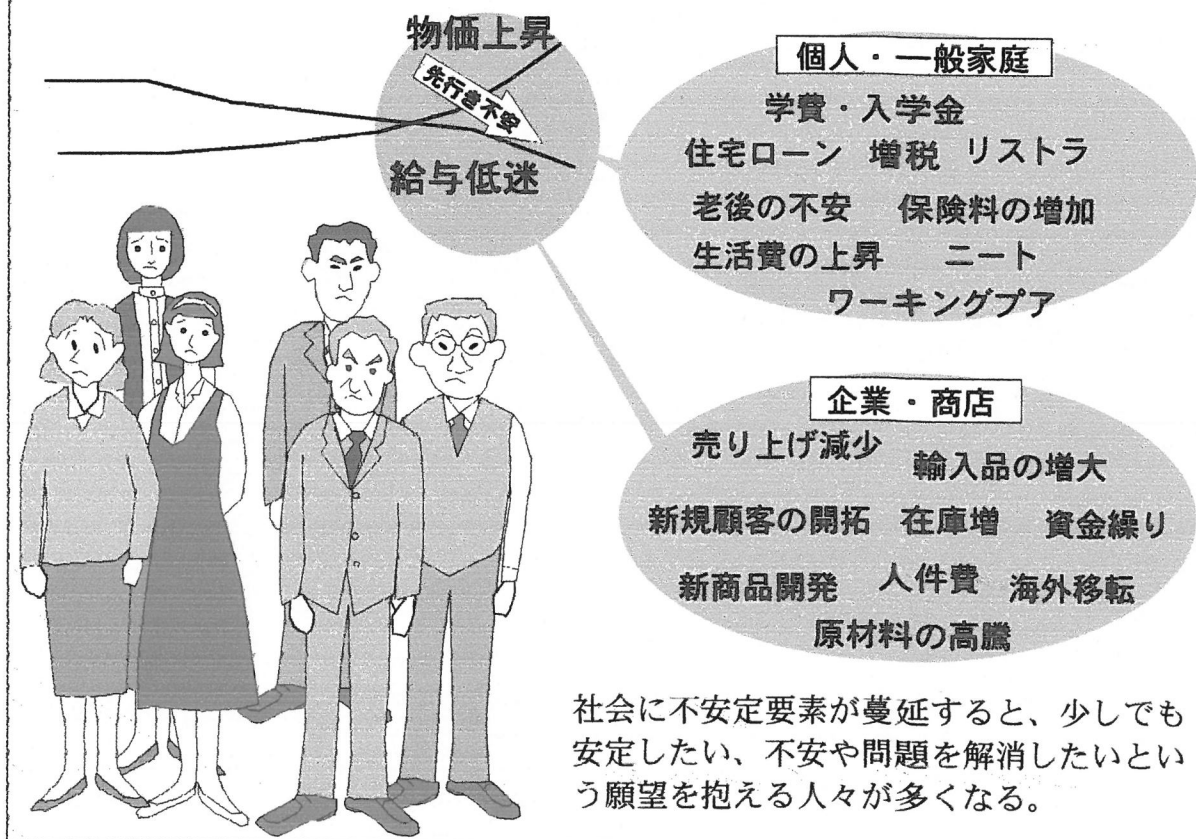
後に、「詐欺」として逮捕される悪質なケースが少なくない。

格差が拡大し、モラル崩壊がすすみ、給与の低迷や減少、あるいはリストラや再就職難など、先行きの見通しがつきにくい不安が蔓延する社会環境下では、そのような不安や悩みにつけ込み「財テク」や「家計の足し」に、などという個人をターゲットにした手口の「詐欺」や「悪徳商法」が多発する。

さらに、現在のように悪化する経済環境では、商店や企業にとって、売り上げの確保や新規取り引き先の開拓は至上命題であり、これらの願望を巧妙に悪用して「商品詐欺」「受取詐欺」「融資詐欺」などが多発する。

いずれにしても、詐欺や悪質商法は経済や生活が不安定で、モラルが荒廃した時代に発生する弱肉強食型の犯罪である。

「詐欺」や「悪質商法」は、社会環境を映す鏡！



現在、過去に例のない不況が日本で発生している。中国による格安な農産物や各種の商品の大量輸出が、国内のみならず世界中を席卷しはじめた。さらに工業製品などは、人件費の安い東南アジアを中心とした国々に工場を移転させて生き残りを図るというシステムができあがりつつある。

くわえて原油が高騰し、生活必需品が値上がりしている。また、3Kと呼ばれる職業に外国人が就労するようになり、働いても家賃すら払えないワーキングプアと称される低所得者層が大量に出現している。

低賃金層と中間層、高給層の3層社会となり、昇給の停止や給与の減少、あるいはリストラや再就職難などという不安要因が蔓延している。

政治は混沌とし、国民の意思とは逆の政策で、権益や利権の確保に血道をあげる政治家や官僚の言動をマスコミが報じている。

このような環境下では、主婦層をターゲットにしたアルバイト商法、リストラや再就職、副収入を考える主人をターゲットにする資格商法などが発生しやすい。

老後に不安を感じる高齢者や主婦などをターゲットにした手口が出現する。

年利10~20%という高利回りで「墓地の開発事業」や「健康食品事業・通販事業」や「園芸事業」、「インターネット事業」や「環境（エコロジー）事業」等など、成功しているかのように偽装されたデーターを見せて、財テク（融資）に誘い込み、投資金を騙し取るのだ。

騙す手口や被害に遭う人々の動機に社会が映る。保険金詐欺に見える拝金主義、高齢者や主婦を狙う手口は弱者切り捨て主義、不幸にした数が満足度になる我欲主義などである。

弱者を狙う手口に、醜い価値に染まりつつある現代の白画像を見るようだ。